

## 令和7年度 第1回甲賀市観光振興計画審議会 会議録

【日時】令和8年1月23日(金) 13:00～14:00

【場所】甲賀市役所4階 402会議室

### ◎出席委員

別紙名簿のとおり

### ◎事務局

産業経済部長 近藤直人

産業経済部次長 伊東正樹

観光企画推進課長 神山貴昭

観光企画推進課長補佐 中島章宏

観光企画推進課係長 立岡直樹

観光企画推進課主事 中西翔馬

### ◎次第

#### 1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

#### 2. 委嘱状の交付

#### 3. あいさつ

#### 4. 自己紹介

#### 5. 委員長、副委員長の選出

委員長挨拶

#### 6. 報告事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画第2期実施計画の概要及び進捗状況について

#### 7. その他

#### 8. 閉会

## 次第1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

## 次第2. 委嘱状の交付

## 次第3. あいさつ

## 次第4. 自己紹介

## 次第5. 委員長、副委員長の選出

委員長に和歌山大学の木川委員、副委員長に一般社団法人観光まちづくり協会の小山委員、同じく副委員長に信楽町観光協会の藤原委員を選出。

## 次第6. 報告事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画第2期実施計画の概要及び進捗状況について

事務局：第2次甲賀市観光振興計画についての概要説明及び資料について説明。

資料1 第2次観光振興計画第2期実施計画【成果指標実績】

資料2 第2次観光振興計画第2期実施計画【実施計画評価総括表】

資料3 第2次観光振興計画第2期実施計画【実施計画評価個別表】

委員長：資料1について、観光入込客全体の数値は目標値を上回っているが、その下以降の指標である甲賀流リアル忍者館や道の駅などの来場者数については、目標を達成していないのは、どのような理由か。

事務局：観光入込客数では、ホテルや神社仏閣、飯道山、イベント等における観光入込客数が増えている。観光入込客数は、主要な観光地やお店、施設、イベント等の合計となっているので、全体的には増えている。また、補足として、令和6年度の観光入込客数は、約347万人であり、内訳としては、観光分野は約210万人、ゴルフ客が約101万人、イベント関連で約21万人となっている。

また、地域別では、信楽が1番多く約160万人で全体の46%で半分弱を占めており、次に水口が約83万人と25%を占めている。

なお、信楽については、令和5年と令和6年を比較すると、インバウンドの観光客が倍以上となっている。

委員長：観光分野の観光客の定義は日常の場所を離れて移動した方のことをいうので、例えばビジネスで来られて宿泊した場合も含まれていることになっている。

委員：貴生川駅周辺が寂れていて、何とかならないかなと思うところがある。

事務局：現在、建設部の方で、貴生川駅周辺特区構想を地域の方々と協議を重ねながら

貴生川駅周辺の活性化を目指して、取り組みを進めている。

委員長：当審議会の中で、今のようなご意見があったので、今後、貴生川駅周辺特区構想の進捗状況などで公開できることがあれば、資料等で説明いただき、観光の中でそれをどう位置付けるかなど議論すればよいのかもしれない。

委員：先ほどインバウンド客が増加しているとあったが、普段生活していてあまり実感が無い。甲賀市にもインバウンド向けのツアーなどが実際にあるのか。

事務局：数字では令和5年度と6年度を比較すると2万人以上増えており、特に信楽で増えている。実際にインバウンド向けのツアーを造成したり、その呼び込みなども展開されている。日本全体としてもインバウンド客が増加しているのも本市としても通訳ガイドなどの整備を行っている状況である。

委員長：観光業界の方もおられるのでお聞きするが、その辺り実感はあるか。

副委員長：信楽の目線で見ると増えてきたなという実感がある。ミホミュージアムに来られる方が1番多く、焼き物を目当てに来られる方もおられる。

副委員長：信楽以外の4町では、倍になったという印象はない。ゴルフ客として来られる方も一定数いるし、個人のお客さんもいるが、団体客が忍者を目当てに来られることはまだまだ少ない。

委員長：特に昨年では、大阪や京都にインバウンド客が多すぎて、日本人客がその地域を避けて別の所に行くといったことも言われていた。観光事業者の方に聞きたいのだが、今までなかった地域に新しくツアーを作るといった流れなどもあるのか。

委員：実際に京都などは外国人が多く、日本人が少ないのは事実としてある。いわゆるゴールデンルートの大阪、京都、東京以外の所に流れてきているので、京都から外国人観光客などを引っ張ってくるのが一番良いのだが、そういった形で何かできれば面白いかなと思う。

委員長：数字だけで見ると2025年は、訪日外国人数は約4,200万人で、その前の年も過去最高のインバウンド客数だったが、全体の観光客数はコロナ前をまだ下回っている状況である。これはいかに日本人旅行客が減っているということだけど、そのような状況の中、地域によってはインバウンド客を呼び込むところもあれば、日本人旅行者を増やす地域もあり、地域それぞれの戦略がある。ただ、どちらにしても甲賀市は忍者や陶器など世界的に売れるコンテンツであることは確かである。

委員：日本人客をどう呼ぶかっていう部分で、岩上コミュニティセンターでは棚田カードを渡しているが、それを目当てに平日でも遠い所から来られている。そういった方は、九州や東北など日本全国集めて回っておられるので、ハマる人はハマるようで、他の事例だとマンホールカードとかもある。そういったスタンプラリー的なものを甲賀市でも取り組むのも良いかなと思う。信楽から土山ま

で5町回ってもらえるようなコンテンツがあればいいなと思う。地域を巡って集めることは日本人は好きだと思うので、そういったコンテンツを作って、全国から人を集められたらいいなと思う。そのコンテンツを何にするかというのは難しいところだとは思うが。

副委員長：道の駅では、琵琶湖キーホルダーを販売しておりすごく人気がある。昔から集める系というものは常に用意しようとは考えているが、色んな物がありすぎてなかなか絞り切れない。御城印は今も流行りなので徐々に揃えていっている。

事務局：観光協会の方で御城印スタンプラリーをされていて、この前、近江八幡で実施された際は、ものすごい人気ですぐに台紙が足りなくなるくらいだったので、好きな人には刺さると思う。

委員長：その他に、計画の進捗状況について、ロケーション推進関係にA評価がついていることが多い点で、甲賀市はロケーションを推進するところの範囲も多く、他県や他市町と比較すると、色んな映像媒体を持ってこられて上手くやっているなという印象を受けている。油日神社で撮影された侍タイムスリッパーの映画が売れたり、お茶のCMで信楽が使われたりとか、撮影部隊の人たちが撮影しやすい環境づくりというのは色々とされているのかなと思う。ただ一方で、外から来た人間から見たら、例えばここに来たらこれ買わないといけないというお土産はこれから作っていかなければならないと思う。

観光の強い八十八ヶ所霊場では、昔からあるわけではなく、明治以降に鉄道会社のキャンペーンで作ったものを長く続けていったらみんな歩くようになったということもある。昔にお坊さんが歩いたことはあるみたいですが、今くらい浸透したのはそのキャンペーンから長く続けてこられたことが要因である。

また、世界的に浸透しているクリスマスもコカ・コーラの宣伝から世界中に広がったといわれているが、意外と観光というものは何か大切なものがあって、それをうまく活用して作り上げていくことが必要だと思う。

委員長：今回は、第2期最終年の令和6年度実績を踏まえた締めくくりということで、また今後委員の皆さんと問題意識を共有しながら議論できればと思う。

副委員長：インバウンドに関連することで、昨年の大阪関西万博について信楽としても期待はしていたが、効果はいまいちだったという印象だったが、市としての分析はどう考えているか。

事務局：まだ、分析までには至っていないが、大阪関西万博や国スポ・障スポのような大きなイベントが開催された。それを踏まえながら、インバウンド客も含め今後どのような形で甲賀市へ誘客していくかが課題だと認識しているので、引き続き両観光協会と協力、連携を図りながら進めていきたい。

委員長：何に期待して何が期待通りではなかったなどあるか。

副委員長：例えば、海外から万博目的に来て大阪に泊まるとする。大阪から京都へ行こ

うか京都行ったついでに甲賀市へ遊びに行こうかという流れに期待して、それを誘客しようと動いていたが、実際はそんな感じではなかった。

委員 長：大阪は非常に多かった。

副委員長：聞いた話では、万博で当初期待していたインバウンド客数に対して、実際は半分程度だったと聞いた。

委員 長：その辺りも踏まえて今後この審議会で議論していきたいと思う。

本日はありがとうございました。

次第7. その他

次第8. 閉会

以上 14時00分終了